

事例1

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代の患者。後頭部を強打し、夜間に救急受診。
- ・ 担当医師の診察時、一過性の健忘、後頭部の皮下血腫と疼痛あり。脳神経外科医師が頭蓋骨骨折、頭蓋内出血の精査目的で頭部単純CT 依頼。
- ・ 脳神経外科医師が画像を確認し、頭蓋内に明らかな急性の出血はないと判断。意識清明、麻痺の出現がないことから帰宅を指示。帰宅後、気分不快、嘔吐あり。翌日、呼吸停止状態の患者を家族が発見。画像検査から約 16 時間後死亡。
- ・ 死因は急性硬膜下血腫。死亡時画像診断 (Ai) 有、解剖有。
- ・ 画像診断報告書は、死亡の翌日に作成。
- ・ 頭部単純CTの所見で慢性硬膜下血腫に加えて、わずかな急性硬膜下血腫を認めた。